

九州正教会だより

第35号



(人吉・鹿児島・熊本・福岡)

2022年8月1日発行

発行人：司祭グリゴリイ水野 宏

〒868-0081 熊本県人吉市上林町979-5 人吉司祭館

TEL / FAX 0966-24-7861

mail ocj.kyushu@gmail.com

ホームページ <https://www.ocj-kyushu.com/>



軍国主義下の殉教者・セルギイ府主教

司祭グリゴリイ 水野 宏

わが国で8月15日は終戦記念日です。先の大戦で失われた多くの人々の霊の安息と平和を祈念する日という位置づけですが、同時に私たちは終戦のわずか5日前、1945年8月10日に永眠したセルギイ府主教のことも忘れることはできません。

セルギイ府主教(1871-1945)は弱冠35歳でサンクトペテルブルクの大主教に選ばれた、当時のロシア正教会を代表するヤングエリートでした。1908年、ニコライ大主教(後の亜使徒聖ニコライ)の後継予定者として来日。1912年2月のニコライ大主教永眠に伴い、彼が幕末から半世紀かけて築き上げた日本正教会を引き継ぎました。

しかし、1917年のロシア革命と共産政権発足により、日本正教会は帝政ロシアという経済的支持基盤を失いました。さらに1923年9月、関東大震災で東京のニコライ堂と教団本部が全て焼失。それでもセルギイ府主教は破綻の危機に瀕した日本正教会のために、全国行脚して寄付を集め、1929年に現在のニコライ堂の再建を成し遂げました。

しかしそれも束の間、1931年の満州事変勃発を期に、日本は中国への軍事侵攻を拡大し、社会の右傾化・軍国主義化が進みました。その結果、キリスト教会は「外国の宗教」として、ことごとく迫害されました。日本正教会も例外ではなく、セルギイ府主教は外国人であるがゆえに、自分が懸命に再建したニコライ堂から追放されてしまいました。

セルギイ府主教は彼を慕う信者たちとともに自宅で祈りを守りましたが、そのため憲兵隊からソ連のスパイの嫌疑をかけられて、1945年5月に連行されました。1か月に及ぶ厳しい取り調べの結果、嫌疑不十分で釈放されましたが、その間の空襲で自宅は焼失。拘留生活で健康を害した彼は終戦を目前に、苦難に満ちた生涯を閉じたのです。

多くの苦しみ、とりわけ戦争が生んだ社会の狂気の中で、セルギイ府主教は最後まで教会と祈りを守り続けました。今も世界で戦争の狂気が満ち溢れている中、私たち日本正教会もセルギイ師を思い起こして自らの信仰を固く守り、平和のために祈りましょう。